

2018 年度 聖学院大学総合研究所 ラインホールド・ニーバー研究会主催 第2回ラインホールド・ニーバー研究会 高橋義文 「ニーバーと人種問題」

2018年12月17日（月）18時～19時30分まで、聖学院新館2階集会室において「2018年度第2回ラインホールド・ニーバー研究会」が開催された。今回は、高橋義文氏（聖学院大学大学院客員教授）より、「ニーバーと人種問題-ジェイムズ・H・コーンのニーバー評価に触れて-」と題した講演を伺った（参加者14名）。司会は、柳田洋夫氏（聖学院大学人文学部チャプレン・教授）が担当した。また、開会祈禱を菊池順氏（聖学院大学政治経済学部チャプレン・教授）がささげた。以下は講演の要旨である。



当日の様子

黒人解放の神学者であるJ・コーンは、2011年に出版された『十字架とリンチの木』（*The Cross and the Lynching Tree*）において、人種問題に関して、痛烈にニーバーを批判した。例えば、彼の著作には黒人知識人が誰も引用されていないこと、人種問題に関する会議にいかなるものも参加しなかったこと、黒人の苦難に対して共感が著しく欠如していること、人種隔離問題に沈黙を決め込んだこと、等である。しかし、これらのコーンの批判は真にニーバーの実像を表しているのであろうか。高橋氏は、本講演を通して、コーンの叙述を踏まえつつ、ニーバーの人種問題への関わりの全体像及びこの問題における思想の特徴を考察し、

その意義を提示した。

まず考察に際して、高橋氏は、ニーバーの活動を4つの時代区分に分類（a. デトロイト時代、b. 初期ユニオン時代、c. 1940年代、d. 公民権運動とその後）する。

a. デトロイト時代、すなわちベテル福音教会の牧師時代におけるニーバーは、新興工業都市デトロイトに急増する黒人への人種問題の是正のために時間と努力を傾注した数少ない白人聖職者の一人であった。故に、デトロイトのYMCAの事務総長H・ダンバーは、彼がユニオン神学大学院の教員職になる際、デトロイトを去ることを惜しんだといわれる。ただし、黒人問題を人類全般の普遍的な罪の傾向の領域で解釈した思想は、やがて黒人側の批判に晒されることにもなる。

b. 初期ユニオン時代（1930年代）は、ニーバーにおける黒人問題の実践的な取り組みの旺盛な時期であった。特に、戦後、公民権運動の拠点の一つとなったハイランダー・フォークスクールの設立に協力し、理事にもなっている。M・キング牧師はこの学校と深いかかわりを持っていたし、あのR・パークスもこの学校でかつて講義を受けたのである。またニーバーは、黒人小作農の生活水準の向上のために設立されたデルタ共同農場の理事長として尽力した。思想においても、『道徳的人間と非道徳的社会』において、人種問題における重要かつ深遠な考察を為した。

c. 1940年代に入ると、ニーバーの関心は国内から国際問題に移る。これ以降、人種問題に関する実践的な取り組みは影を潜めていくようになる。また、キリスト教現実主義の観点から、人間の罪の現実性を強調するような言及や、人種問題は正への変革に対してより現実可能的なプロセスを求める言説が現われる。ただ、人種問題の重要な発言は継続された。特に、教会が「福音の資源」であるがゆえに、黒人・白人教会が共に、人種問題を解決するために、歩むべきことを求めたことなど

は重要である。

d. 公民権運動期及びその後においては、一貫して政治的現実主義のプロセスを重視し、それを評価する言説が多く見受けられるようになる。1896年のプレッシー判決に対する評価、またブラウン判決の歴史的成立時期に関する考え方、さらにはキングが求めたアイゼンハワー大統領への嘆願書の署名を拒否したことにも、ニーバーの現実的視座は表れている。

ニーバーは、キングが暗殺された半年後すなわちその最晩年期において、人種問題に関する長い論文を書いている。アメリカの人種問題に関する現実的なプロセスの変化の歴史を回顧しつつ、最後に、黒人に対する「われわれの負い目は…とてつもなく明白」と締めくくっている。

以上のように高橋氏は客観的なニーバー分析を施した後、それらの事実から照らし合わせて、1. コーンのニーバー批判があまりに単純で行き過ぎていること、2. ニーバーの描写に関してもかなりの問題があること、などを指摘した。また、ニーバーの現実主義・漸進主義の限界性に触れつつ、人種問題におけるニーバーのある種の悲観的洞察は、未だに黒人問題がアメリカでの主要かつ根本的な人権問題として表出している21世紀の今日における現実状況と合致しているのではないかと問うた。

講演の後、時間の関係上短くではあったが、質疑応答が為され、活発な意見が交わされた。特に、平和主義の定義や、また、ニーバーとキングとの関係に関する質問などが出され、講演内容をより多角的に理解する機会となった。

今回の講演は、ニーバーと人種問題の関わりを扱う内容だったが、ニーバー研究史から見て、その全体像を十分に扱う研究がこれまで乏しかっただけに、大変有意義な時となった。高橋氏の貴重な講演に心より感謝するものである。

(報告者：五十嵐成見 [いからし・なるみ] 聖学院大学心理福祉学部 (兼人間福祉学部) チャブレン・心理福祉学科助教)

本

書籍のご案内

お近くの書店、Amazon.co.jpからお買い求めいただけます。

近刊

人間の本性

——キリスト教的人間解釈

ラインホルド・ニーバー 著

高橋義文・柳田洋夫 訳

2019年4月25日発行予定

3,700円 (税別) (予価)

「人間とは何か」を根源的に問い、状況に向き合う。



人間の運命

——キリスト教の歴史解釈

ラインホルド・ニーバー 著

高橋義文・柳田洋夫 訳

2017年3月31日発行

3,700円 (税別)

歴史の限界を踏まえつつ、その可能性と意味を問う。



聖学院大学研究叢書8

ニーバーとリベラリズム

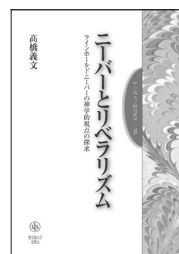
——ラインホルド・ニーバーの
神学的視点の探求

高橋義文 著

2014年3月31日発行

8,000円 (税別)

歴史との関係における超越的
神学的視点を明らかにする。



ラインホルド・ニーバーの 歴史神学

——ニーバー神学の形成背景・
諸相・特質の研究

高橋義文 著

1993年11月30日発行

4,272円 (税別)

幅広い活動を展開したニーバー
の神学思想を解明する。



聖学院大学出版会 TEL:048-725-9801 FAX:048-725-0324
URL:https://www.seigpress.jp/